

茨城大学学報

第268号

平成18年8月～平成18年9月



講堂前の紅葉風景

INDEX

- ◆平成18年度学校図書館司書教諭講習を開催
- ◆小松高等教育企画課長講演会
- ◆科学研究費補助金学内説明会
- ◆「水戸黄門まつり」に参加
- ◆四大学現代GPプロジェクトチーム公開シンポジウム
- ◆教育学部附属小学校校庭整備作業
- ◆附属幼稚園インターネット教室を開催
- ◆ものづくり体験・理科工作教室を開催
- ◆「高等学校長協会等との連絡協議会」を開催
- ◆学術交流シンポジウムを開催
- ◆学務事務に関する研修会を開催
- ◆『茨城大学同窓会連合会』を設立
- ◆「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースだより

8月号

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◇ 平成18年度学校図書館司書教諭講習を開催

本学では、標記講習を7月24日（月）から8月11日（金）まで茨苑会館及びIT基盤センターマルチメディア教室を会場として開催しました。

この講習は、学校図書館法第5条第3項の規定に基づき、学校図書館の専門的職務に携わる司書教諭の養成を目的とし、文部科学大臣の委嘱を受け茨城県教育庁と協力して開催したものです。資格取得に必要な5科目のうち、昨年度は2科目を実施、今年度は残りの3科目を実施しました。猛暑の中、県内の現職教員46名が熱心に受講されました。



今年度の講習内容は以下のとおりです。

1 講習科目： 読書と豊かな人間性

期 間： 7月24日（月）～28日（金）

講 師： 吉田 昭（つくば市立中央図書館館長）
桐原光明（茨城県立結城第一高等学校教諭）

2 講習科目： 学習指導と学校図書館

期 間： 7月31日（月）～8月4日（金）

講 師： 吉寄三義（茨城女子短大非常勤講師）

3 講習科目： 情報メディアの活用

期 間： 8月7日（月）～11日（金）

講 師： 額賀修一（大成女子高等学校校長）
津賀宗充（茨城県立鉾田第一高等学校教諭）

◇ =小松高等教育企画課長を講師に迎え=
「福島・宇都宮・茨城大学共催による講演会」を開催

去る8月2日(水)に、文部科学省高等教育局 小松 親次郎 高等教育企画課長を講師に迎え、「国立大学法人をめぐる最近の動きと今後の諸課題」と題した講演会を福島・宇都宮・茨城大学共催により、茨城大学において開催しました。

当日は、3大学間連携協定を結んでいる3大学学長懇談会を13時から開催し、15時から講演会が開催されました。

講演会場の水戸キャンパスでは3大学学長、役員、評議員等を始め、教職員約150名が出席し、キャンパスが異なる日立・阿見キャンパスでは、VCS(バーチャルキャンパスシステム)を利用し約80名が出席し、総数230名有余の出席がありました。

小松課長からは、貴重な資料に基づき国立大学法人化の基本的な考え方及び設計についての説明に始まり、国立大学法人をめぐる今後の重要課題について、講演予定時間を大幅に超えて、熱のこもった講話がなされました。出席者は熱心にメモをとりながら、今後の国立大学法人にとっての教育改革への取り組みや、評価の充実に向けた検討の重要性について共通認識することができ、非常に好評でした。



小松 親次郎 高等教育企画課長

◇ 科学研究費補助金学内説明会

本学では、「科学研究費補助金学内説明会」を8月3日に阿見地区、10日に水戸地区、11日に日立地区において開催しました。この説明会は、科学研究費補助金に関する理解を深めるとともに、応募件数の拡大と採択率の向上を図るためのものです。

今回の説明会では、三村学長特別補佐から「科研費の実績と増加のポイントー茨城大学における研究活性化のために」と題し、競争的研究資金である科研費の位置付け、茨城大学の実績、ご自身の研究計画調書の作成例などの説明が行われました。

さらに、今回の説明会の目玉である科研費審査委員会委員経験者による「審査のポイント」について、阿見地区においては松田智明農学部長及び中曽根英雄農学部教授、水戸地区においては曾我日出夫教育学部教授及び田内 広理工学部教授、日立地区においては白石昌武工学部長、本橋嘉信工学部附属超塑性研究センター一長及び友田 陽工学部副学部長から、評価ルールなど審査のポイントとなる事項の詳細な説明があり、研究計画調書を作成する上で、大いに役立つものとなりました。

また、鈴木清治研究協力・地域連携課長及び事務担当者から、科研費の概要及び不正防止等について、説明が行われました。

この説明会には、各地区を合わせ約120名の教職員が参加し、大変有意義な説明会となりました。



三村学長特別補佐

◇ 「水戸黄門まつり」に参加

本学では、8月5日（土）に水戸市内で開催された「水戸黄門まつり市民カーニバル」に初めて参加し、村中副学長はじめ、教職員、学生、留学生約70名が約4時間の踊りコンテストに汗を流しました。

法人化後の茨城大学のPRや、学生や教職員の熱気を水戸市内に振りまこうと参加したもので、夜になっても三十度を超える暑さの中、約2kmの沿道を練り歩いた。菊池学長も激励に駆けつけ、メンバーの熱気も最高潮となりました。

踊りの結果は「参加賞」に留まりましたが、カーニバル終了後は成し遂げた充実感に浸ることができ、祭りは毎年開催されるため、来年に向けての抱負を語り合い、更なる規模での参加を誓い合いました。



市民カーニバル出発前の参加者

◇四大学現代 GP プロジェクトチーム 公開シンポジウム
地域と響きあう農業・農学教育の新展開
—現代 GP 地域貢献分野における大学の取組みと農学教育—

本学では、平成 18 年 8 月 8 日(火)農学部講義棟で農学教育分野での地域連携を対象として現代的教育ニーズ取組支援プログラムに取り組む、秋田県立大学短期大学部、岐阜大学、筑波大学、および茨城大学の四大学現代 GP プロジェクトチームが主催し、標記のシンポジウムを開催致しました。

「地域と響きあう農業・農学教育の新展開」のシンポジウムの実施により、四つの大学が個々に取り組むテーマの独自性が明らかになるとともに、共通する問題を見出すことができました。また、農業および地域の活性化、伝統文化の継承・保全、遺伝資源や環境保全、および耕作放棄地の再生などの地域の問題に農学部はどのように取り組むべきか、など実践的な議論ができました。



参加者からは「農学部は応用科学を取り扱っているので、それらの研究成果や学生教育を積極的に地域活動に還元し、地域問題の解決に貢献してほしい」といった要望などや今後の取組みに参考となる意見が多くいただきました。

全体の感想として、参加者からは「大学と地域住民、行政、大学との関わりの中で、地域が活性化していく様々な取り組み事例が聞けてよかった」、「地域という一つの問題に対して四つの大学でとり組み方は少しずつ違っていたので、解決方法は一つではないことがわかった」という意見があり、さらに「現代 GP が終わったら後の活動はどのように進めるのか」という地域貢献活動の継続を望む率直な意見もありました。

今回のシンポジウムでは、主として地域貢献における農学教育の課題と問題点の整理を行いました。それぞれの大学による地域と連携した農学教育は、地域にとって高いニーズがあり、学生の実践的な「学び」を促す手法としても大きな成果をあげつつあります。今後は、これらの活動をわが国における農業・農学教育の新たな展開として議論を広げていきたいと思えます。



参加された人数：137名（うち、教育関係者75人、一般の方15人、学生47人）

◇ 教育学部附属小学校校庭整備作業

教育学部附属小学校では、残暑厳しい夏休み最後の土・日曜日に延べ200人の保護者が教員とともに運動場の整備に汗を流しました。

校庭の整備は、1周150mのトラックのコーナー等に埋めてある煉瓦が年を経るにつれて、土砂の流出などによりむき出しになっている箇所が目立つようになったことから、安全面や運動場を使用する機会が多くなる時期を考慮し、保護者会の積極的な協力のもとに実施したものです。

作業は、大型ショベルカー、ダンプカーなどを使い大がかりな作業となりましたが、予定どおり無事終了しました。キッズワールド（運動会）などの行事で、児童たちの笑顔はじける姿を思いつつ作業した2日間でした。



保護者と共に行った作業風景

◇ 附属幼稚園インターネット教室を開催

教育学部附属幼稚園では、去る8月24日（木）に環境リサーチラボラトリー棟教室で教育学部附属幼稚園保護者を対象としてインターネット教室を開催しました。これは新しく附属幼稚園が開設を予定しているホームページを見るための技術や電子メールの使い方を学ぶもので、お父さんお母さんの参加を受け、ほとんどの参加者がインターネット初体験でしたが6時間の講義時間で、最終段階ではネットサーフィンやメールの交換が出来るまでの技術を学ぶことが出来ました。

更に、お母さん達が安心して学習できるように、預かり保育を実施した子ども達は、キャンパス内の探検を行い、子ども達にとってもたくさんの発見があったようでした。

附属幼稚園では、情報公開としてのホームページの目的に加え、個人認証が出来る保護者専用のサイトをもつCMSホームページの導入を進めています。個人情報保護につとめながら子どもに関する情報を家庭と学校で共有する仕組みを構築中であり、保護者の協力を得るためにインターネット技術を誰もが簡単に出来るようにとインターネット教室を開いたもので、参加者からは、パソコンのほか携帯電話からも情報確認がしたい、教師とのメール交換がしたいなどの要望がありました。保護者の望む情報とは何か、小さな子どもを守るためのIT技術とは何かなど学校安全の充実の為に附属幼稚園のCMSホームページは、保護者と共に年内完成を目指して作業を進めています。



熱心にインターネットを学んでいるお父さんお母さん

◇ ものづくり体験・理科工作教室を開催

本学では、工学部技術部主催の地域貢献行事「ものづくり体験・理科工作教室」を去る8月25日（金）に工学部で開催しました。

この教室は、地域貢献の一環として小学生4，5，6年生を対象に技術部が主体となって開催したもので、技術部としては初めての試みでありましたが、工学部のある日立市内の小学生48人の参加があり盛大に行うことができました。

教室の内容は、「ペットボトルでモーターを作ろう」、「鏡の不思議（ワンダーボックスを作ろう）」、「草木染め（タマネギの皮で色を染めよう）」の三つのテーマで、参加した児童はそれぞれが希望したテーマに分かれ、始めて行う作業に戸惑いながらも技術部職員の指導のもと、全員が完成させることができました。

参加した児童からは、「難しかったがおもしろかった」、「ますます理科が好きになった」、「来年もぜひ参加したい」といったコメントが多数寄せられ、本学としては、来年以降もこの理科教室を続けていくことで、より地域とのつながりを深めていきたいと考えています。



工作する児童に対し指導する技術部職員

◇ 「高等学校長協会等との連絡協議会」を開催

本学では8月28日（月）に、茨城県高等学校長協会等との連絡協議会を茨城大学茨苑会館において開催しました。

この連絡協議会は、「茨城大学と地元高等学校相互の教育活動の改善、充実を図ること」を目的として毎年行われ、今年度は25校の高等学校長の出席を得ました。

菊池茨城大学長の挨拶に始まり、谷島茨城県高等学校長協会長の挨拶に続き、村中副学長（教育担当）から、「人口減少社会における大学教育、茨城大学における教育の質の向上のための試み、学生支援サービス」について説明が行われました。さらに、人文・教育・理・工・農の5学部長から学部の教育理念、カリキュラム、今後の取組み、求める学生像等の説明が行われました。

意見交換では、校長から卒業者の進路状況、就職率及び大学院進学率等の質疑や模擬授業開講の要望があり、今後の教育目標や指導方針、高大連携のあり方について共通理解すると共に、相互の教育活動の改善や充実を図ることが認識でき、非常に有意義な会合となりました。



挨拶する菊池学長

◇ 学術交流シンポジウムを開催

本学では、平成17年6月に大学間交流協定の締結を行った韓国の仁済（インジェ）大（金海市）において、第1回「仁済大（金海市）・茨城大学共同学術シンポジウム」を9月7日に開催しました。

これは、大学間交流協定に基づき開催されたもので、今回のテーマを「21世紀の韓日協力」として、本学から、村中知子副学長（教育担当）が「少子高齢化と教育：韓国と日本」、兪和人文学部教授が「韓国と日本の福祉国家の展望」、仁済大（金海市）から、イ・ジョンウ文学部教授が「韓国と日本の年金について」、パクジェソプ文学部教授が「韓流」、チンヒグァン文学部教授が「周辺情勢と日韓関係」と題してそれぞれ発表しました。

その後の討論会では、本学から、新田滋人文学部教授、安龍洙留学生センター助教授、仁済大（金海市）から、チョン・ヨンジャ文学部教授、ペ・ジンヨン文学部教授が加わり、パクソプ文学部長の司会により、それぞれの発表内容について、熱の入った討論が行われました。

なお、仁済大（金海市）の教職員及び学生に加えて、学生交流協定に基づき留学している本学の学生も聴講し、討論会では聴講した学生からの質問もあり、大変有意義なものとなりました。



発表する村中副学長



発表者討論会

◇ 学務事務に関する研修会を開催

本学では、去る9月7日から8日までの2日間、学務事務の共通理解と窓口事務による接遇等の、学務事務職員の資質向上を目的とした学務事務研修を実施しました。

研修は、参加者が現実に抱える課題をテーマとした講師となる等、双方向型の研修として、昨年に引き続き第2回目の開催でした。

参加者は、学務事務職員のみに限らず総務部及び財務部等の職員を含め、総勢70名の参加者があり、質疑応答においても活発な意見交換が行われ、学務事務業務の共通理解が図られた研修会となりました。



接遇研修の様子

◇ 『茨城大学同窓会連合会』を設立

茨城大学同窓会連合会設立総会を9月30日水戸市内のホテルで開催しました。

本学では、これまで学部単位に五つの同窓会が個別に活動をしてきましたが、各同窓会間の情報を共有し、同窓会と大学の連携を図るのを主な目的として、『茨城大学同窓会連合会』を発足したものです。

これを契機に、卒業生を「茨大サポーター」に位置付けて、同窓会と大学の間の橋渡し役となることが期待されています。

また、地域社会へ開かれた大学を目指す一環としても連携・交流を活性化させ、地域社会への貢献を目指しています。



同窓会連合会設立総会（室伏会長の挨拶）

なお、総会後の設立記念パーティーには、地域・産業界等の方々や卒業生約170名のご出席があり、橋本茨城県知事、加藤茨城県商工会議所連合会長から御祝辞や激励をいただき、和やかな懇談の中で親睦を深めることができました。



設立記念パーティーで校歌演奏を行う茨城大学吹奏楽団

- 「NHK 県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 8月号 -

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「飛び出せ！キャンパス」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成18年8月31日(木)・・・茨城大学4年生の今を描いた学園ドラマ・君たちとの日々
(教育学部情報文化課程4年次 添田拓郎くん)

今まで一緒にいた友達同士が就職や進路が決まり、今までのようにずっと今の生活が続いていくと思っていた環境から、これからに向けて変っていく、そういった大学4年生のいましか撮れない心境をドラマにしてみました。



写真は
大木アナウンサーと
出演者の皆さん

NHK水戸放送局公開スタジオにて：

左から：添田くん、野澤さん、岡本さん、大木アナウンサー

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。